

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：しべちや水辺の楽校活用促進について	
水系/河川名：釧路川水系/釧路川	河川分類：大河川
河川の流域面積：2510km ²	整備計画流量：780m ³ /s(W=1/40) セグメント：2-2
事業：環境整備	事業開始年度 平成20年度
目標設定：定性的	段階：A(フィードバック時)
課題・目的(主な)：その他	
工法(主な)：その他	
配慮事項(主な)：その他	

背景・課題、目標設定

背景・課題：釧路川では「しべちや水辺の楽校」が平成25年度に標茶町で完成し、以後水辺の楽校で水生生物調査を実施している。また、標茶町立標茶中学校では、釧路河川事務所による出前講座(防災学習)を実施しているなか、平成28年、平成30年の出水の経験から防災への関心が高まっている。

目標設定：釧路河川事務所では水辺利用を通じ、子ども達が川に関心を持つようにしたいと考え、今年度は水生生物調査に加え、水辺の楽校の利用を促すために「しべちや水辺の楽校祭」を開催し、水辺に親しむ企画を行った。

取り組み内容・対策例

〈水生生物調査〉

今年度の水生生物調査は、標茶小学校児童13名、釧路湿原川レンジャー※16名で実施した。

調査に先立ち、川で安全に遊ぶためのルールとして、ライフジャケットの着用方法や服装その他について講習を行った。更に、川の危険性の判断要素である水の流れをテーマに、常流・射流を知る方法とその流れが体にかかる力の違いを体験した。水温や透視度、パックテストや水生生物の生息状況による水質判定を行い、身近にある川の環境について学んだ。(※釧路川や釧路湿原の河川環境をモニタリングする市民ボランティア活動)

〈しべちや水辺の楽校祭〉

水辺の楽校の活用促進・水辺に親しむ企画として、標茶町役場と協働で水生生物調査後に、社会実験的なイベントとして「しべちや水辺の楽校祭」を開催した。役場は標茶町の特産であるヨーグルトを子ども達へ配布した。釧路河川事務所では、開催日8月7日(七夕)にちなみ釧路川を天の川に見立て七夕の笹飾りを企画し、短冊に願い事を記入し折り紙とともにミヤコザサに飾り付けをした。釧路河川事務所では笹を刈集め、飾り付けるための折紙用紙を自費で購入し、職員全員で折紙を作製した。当日は役場と協働で楽校祭の進行・子ども達のサポートを行った。

〈参加者からの全体を通しての感想〉

子ども達からは「水辺の楽校でお祭りがあるのは初めてで楽しかった。来年もやってほしい。」、川レンジャーからは「子ども達と接する機会は貴重なので大変満足した。」という声があった。また、釧路河川事務所の職員からは「準備に手間がかかったが、職員全員で楽しんで準備でき、楽校祭当日の子ども達の笑顔を見て、開催してよかったと思った。」という声があった。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

「しべちや水辺の楽校祭」を開催したことにより、「七夕の笹飾りは初めての経験で楽しかった。」という子ども達の声や、役場から「川に近づく機会が無いのでこのような企画はありがたい。来年はより素晴らしい企画にしたい。」という意向があったことから、「水辺の楽校祭」というソフト面での取組で、子ども達が「しべちや水辺の楽校」を通じて川のことを学ぶ機会を創出できることを確認した。また、事務所職員は「水辺の楽校祭」を通じ、地域との関わりを持つことが出来た。次年度以降も役場と協働し、地元との関係を深めつつ、職員の参加・行動からの自己啓発も期待し継続していきたい。

水辺の楽校のハード的な経年変化や利用者の減少があっても、ソフト的イベント「水辺の楽校祭」は、水辺の楽校の利用促進、水際の賑わいを生む効果がある企画であったと評価している。

備考

問い合わせ先 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所 河川課
電話番号 0154-21-5500

しべちゃ水辺の楽校 活用促進に向けた取組について

Keywords : 水辺の楽校祭、水辺利用促進、防災意識向上

●これまでの取組(水生生物調査＋防災意識向上)



水生生物調査・水質判定



投石から常流
と射流を判定



常流と射流の流れ
の力の違いを体験

●活用促進(＋水辺の楽校祭)



七夕 ササ飾り



わたあめ作り体験

「しべちゃ水辺の楽校」では、児童による水生生物調査を実施しているが、経年変化に加え、近年2度の大洪水の経験から水辺利用者が減っていた。

今回初めて、調査日の七夕(8/7)にちなみ「水辺の楽校祭」を企画した。水辺の楽校祭は「水辺で楽しむ祭り」として、事務所・自治体職員自身も楽しみながら準備し、参加者全員が水辺の良さを実感した。本取組では、利用者の注目を水辺に集めることができた。